

Q1:「妊娠高血圧症候群とはどんな病気ですか？」

妊娠高血圧症候群は、以前は「妊娠中毒症」と言われていた病気で、**妊娠中に高血圧（収縮期血圧が140mmHg以上、あるいは拡張期血圧が90mmHg以上）がある病気のこと**を言います。この病気は妊婦さんの5～10%におこると言われており、比較的頻度の高い妊娠合併症の一つです。

はっきりとした原因は解明されていませんが、妊娠初期に胎盤がうまく作られないことが原因となっていると考えられています。妊娠すると胎盤にはお母さんからの血液が豊富に流れるようになりますが、妊娠高血圧症候群では胎盤への血液が流れにくくなるのです。そうするとお母さんの体は赤ちゃんにできるだけ血液を送ろうとして、胎盤で血圧を上げる様々な物質が作られそれによって血圧が上がってしまうと考えられています。また、妊婦さんが元々持っている病気（糖尿病や腎臓病など）や遺伝的な要因（ご家族が罹っていた病気）、妊婦さんの生活習慣などが妊娠高血圧症候群の発症に関係があることが知られています。

何か自分で症状を感じることは比較的少なく、妊婦健診などで高血圧と言われて診断されることが多いです。時には、頭痛、重度のむくみ、急激な体重増加、目の前がチカチカするなどの症状が出てくる場合もあります。

妊娠高血圧症候群が重症になると、お母さんに関しては、(1)肝臓や腎臓の機能障害、(2)子癇（しかん）と呼ばれるけいれん発作、(3)脳出血などの脳血管障害、(4)赤ちゃんが生まれる前に胎盤が子宮から剥がれてしまう常位胎盤早期剥離（じょういたいばんそうきはくり）などを起こすことがあります。また、赤ちゃんに関しては、(1)赤ちゃんの発育が悪くなる胎児発育不全、(2)赤ちゃんの状態が悪くなる胎児機能不全、(3)赤ちゃんが亡くなってしまう子宮内胎児死亡などを起こすことがあります。このように**お母さん、赤ちゃんにとって非常に危険な状態になることもある病気のため、妊娠高血圧症候群と診断された場合には慎重な管理が必要となります。**

（文責 牛田貴文）